

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	福本 信太郎
主な担当科目	合奏 I ①/Ⅲ① Sx, 合奏 I ①②③④/Ⅲ①②③④/合奏特別演習①②(火曜3限)(吹奏楽), 合奏 I ①②③④/Ⅲ①②③④/合奏特別演習①②(火曜4限)(吹奏楽), 合奏 I ①②③④/Ⅲ①②③④/合奏特別演習①②(金曜4限)(吹奏楽), 合奏 I ①②③④/Ⅲ①②③④/合奏特別演習①②(金曜5限)(吹奏楽), 吹奏楽概論 I, 吹奏楽概論 II
2024年の教育目標・授業に臨む姿勢	今年の4年生は高校3年生の時に新型コロナウィルスの影響を直接受けて、高校生活最後の1年は様々な制約や行事の中止を経験してきた学生たちである。せめて大学生活最後の年には、演奏の楽しみや聴いてもらう喜びを感じてもらえるよう自身の成長が実感できるような教育に注力し、学生たちの演奏活動のサポートをしていきたい。
2024年の教育に関する自己評価	レッスンにおいて、また合奏などの授業、そして1年間に行われた数多くのステージの中で、学生たちの沢山の笑顔と満足度の高いコメントを聞くことができた。時に個々に寄り添い、時に全体を鼓舞して学生たちと共に音楽を作り上げることができたと思う。いくつかの授業においてはシラバス通りに展開できなかった部分があり、セメスター制が始まる次年度に向けて教育内容もブラッシュアップしていきたい。
2024年のFD活動に関する自己評価	前年度に比べて所属する委員会などの数が減り、会議などに割かれる時間が大幅に削減されたおかげで、余裕を持って能動的にFD活動に参加することができたように思う。様々なFDに参加することで得ることができた知識を実践に活かすことができた面もあり、その反面知識が記憶として残らない面もあった。過去のFDを議事録のように確認する(思い出す)機会があると良いかとも思う。
授業改善のために取り入れた研修内容	門下生に要配慮の学生がいましたが、事前に様々な背景を持つ学生への対応や種々の意見を伺っていたので、その学生と良い関係を保ちながら教育活動を進めることができた。またその学生と他の学生とのコミュニケーションの取り方についても双方と程よい距離感で接することができたように思う。これらの知識や精神をFDで知っておくことができた事は大きな支えになった。

2024 年度(後期)「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード:870 教員名:福本 信太郎

1)アンケート結果に対する所見

合奏系の科目に関しては、原則として必修ということもあり大変多くの履修者がいる。アンケートの回答率の低さは気になるところだが、全体として学生が概ね積極的に授業に参加し、満足のいく結果を得ていると読み取ることができる。個々の習熟度に応じてバンドの振り分けを行っているが、アンケート結果に見られるのと比例して 4 月から 12 月へと年間を通じて演奏レベルの上達を感じることができている。

吹奏楽概論においては前期の座学中心の授業を礎にして、後期は実践演習として演奏や指揮を学修した。指揮することについてやや消極的な学生も見受けられたが、全体としては回数を重ねるごとに動作やコメントも向上し、次第に指揮することを楽しむ学生も増えてきた。こうした経験による“自身の音楽力の向上”が実感できていることがアンケート結果に表れていると考えられる。

2)要望への対応・改善方策

吹奏楽概論Ⅱの授業への自由記述欄に“アドバイスが問い合わせるような形で、見ていていい気持ちにはなりませんでした”という記載があった。これについては口調や言葉の選び方などに留意し、当該学生への指導は“聴講する全員へのアドバイス”となるよう教員間で確認していくたい。

またサクソフォーン専攻の 1 年生に開講している“合奏Ⅰ”について授業が早く終わることが多く残念だったという記載があった。実習系の授業のため“キリが良い所”まで、また片付けの時間を鑑みてという部分はあると思うが、学生は規定の時間分の授業を受ける権利を有しているので今後は情報を教員間で共有し改善に努めたい。

3)今後の課題

上記の改善案については早期に解決させると共に、比較的満足度の高い各授業についてその質を保持し、また内容をより向上させていきたい。

具体例としては他の授業と連携させることで学修全体としての質の向上を考えたい。例えば吹奏楽概論で招く学外講師の授業を、同日に合奏(吹奏楽)のコマでも実施することで多くの学生に深く学ぶ機会を作る。海外から招いた講師によるコンサートやレッスンを合奏と連結させて、様々な楽器のスペシャリストの生の音楽に触れる機会を増やしていく等を検討していくたい。

以 上